



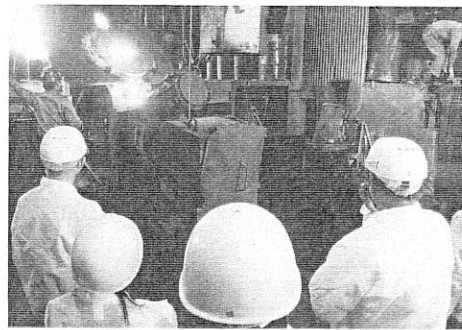
**埼玉ちやれんじ 企業経営者表彰 知事賞に一色社長**

埼玉産業人クラブ (増田文治会長) マスダック社長) は4月20日、さいたま市内で「第13回埼玉ちやれんじ企業経営者表彰」

啓詞会長、三芳合金工業(三芳町)の萩野茂雄相談役、吉野電化工業(越谷市)の吉野寛治

(埼玉県、埼玉りそな銀行、日刊工業新聞社後援) 表彰式を開いた。知事賞は中川製作所(蕨市)の一色譲社長(写真)、産業人クラブ会長賞は大楯精機(朝霞市)の大町亮介社長、特別賞は愛工舎製作所(戸田市)の生窪

社長が輝いた。一色社長は紙製品の開発戦略について講演した。増田会長は講評・あいさつで「中小企業は、大企業がやれないようなニッチな分野を見いだすことで、なくてはならない企業になる」と強調。懇親会で上田清司埼玉県知事は「すばらしい知恵と工夫、意欲と能力が結果するよう交流を重ね、県は研究機関や国などと連携をとりながら地域の企業をしっかりと支えていきたい」と



**大和合金の溶解 工程など見学**

埼玉・T・DU 産学交流会

埼玉産業人クラブ・T・DU産学交流会(佐藤達雄会長)アーベルソフト会長) は4月13日、埼玉県三芳町の大和合金(三芳合金工業)で工場見学会を開催した。会員企業およ

び東京電機大学から13人が参加。合金を高熱で真っ赤に溶かして铸込む溶解工程(写真)や、ごう音を響かせる熱間鍛造の迫力などに圧倒されていた。大和合金は1941年(昭16)創業で、素材の溶解から鍛造、機械加工までを一貫で行う特殊銅合金メーカー。近年は航空機向け

部品の売り上げを伸ばすなど、高い技術力で存在感を高めている。工場内では、高熱で溶けた合金が鑄型に注がれる溶解工程の様子が凝視。熱間鍛造工程では、

「不良が出て溶解炉で溶かしてしまうので、ミスがまるで消えたようになってしまった。ここは改善しないといけない」と、航空機向けはまだ5%程度だが、ここ数年で3倍、5倍と伸びている。10%まで伸ばせる余地はある」と、一つひとつ丁寧に回答していた。

見学後の質疑応答では、「材料管理で苦労はないか」「航空機向けの比率はどれくらいか」など、矢継ぎ早に質問が飛んだ。萩野源次郎社長は「

祝辞を述べた。これに先立つ産業人クラブの第54回定時総会では、「第36回西海記念賞」を住田光学ガラス(さいたま市浦和区)の渡部洋己氏、幸大ハイテック(羽生市)の小柳康雄氏に授与した。

業の社員らを表彰する。渡部氏は「内視鏡型OCT(光干渉断層計)プロローブの開発」、小柳氏は「使う人にやさしいオージオメーター(簡易聴力検査機)の開発」の成果が認められた。懇親会などには140人程度が参加した。